インタビュー

～「好き」をカタチに～

まちの魅力や楽しさに気づく 都市のコミュニケーションをデザインする

東京理科大学理工学部建築学科准教授　伊藤香織さん

伊藤さんは日本でも注目されはじめている「シビックプライド」の考え方や海外の様々なまちづくりの事例を研究する第一人者です。

「シビックプライド」とは、まちに対して市民が持つ『自負』『愛着』のこと。

大学での仕事のほか、最近では、行政や地域の人々とつながりながら、そのまちに住む人達の「シビックプライド」を育てるための活動や仕組みづくりを考える仕事も手掛けています。

Q 今のお仕事をはじめるきっかけと研究内容について教えてください。

A 子どものころからものづくりが好きで、工学部に進もうと思っていました。専攻は建築系か情報系かで悩みましたが、大学２年の後半に建築を選択しました。大学院で師事した先生から都市論を学び、住宅等の個々の建物よりも空間及び社会としての都市に関心が移りました。

現在の研究内容は都市計画です。まずは都市の空間デザイン。広場など公共空間のデザインにより、いかに社会的生活が豊かになるかを考えます。次に都市のコミュニケーションのデザイン。まちは市民をはじめとしてそこに関わる皆の手でつくられていくものです。その第一歩として、多くの人にまちに関心を持ってもらい、まちの魅力や楽しさに気づいてもらうための方法について研究しています。

Q 研究者という道を選んだ際の周囲の反応はいかがでしたか。また、助言はありましたか。

A 周囲の人々に話を聞いたのは博士課程に進む時です。周囲では就職活動が始まっており、聞いた人全員に「博士課程に進むとしても一旦就職してから研究に戻った方がいい」と言われましたが、留学にも興味があり、研究が面白かったので、就職は考えませんでした。

両親は特に何も言いませんでしたが、父親が研究者だったというのは大きかったと思います。子どもの頃から父の研究室に出入りしたり、合宿に参加していましたので、研究者という道を選ぶことに戸惑いはありませんでした。

Q 現在の研究の魅力ややりがいについて教えてください。

A 世界中に多くのまちがあり、どれも個性があり魅力的です。それぞれのまちにとってのより良い空間、より幸せな社会を構想することは、簡単ではありませんが、やりがいがあります。

©YOSUKE SUZUKI

Q これから進路を考える学生や、進路に関してお子さんに助言する立場にある保護者に対して応援メッセージをお願いします。

A「女子だから」「男子だから」とか、進路選択の時に考えることはないと思います。もちろん行ってからいろいろな困難があるかもしれませんが、それは後から考えればよい。好きなこと、興味を持ったこと、やってみたいと思ったことに飛び込めばいいのではないのでしょうか。

物静かなたたずまいの伊藤先生ですが、お話を伺うと、ご自身の研究に対して「好きで楽しい」という言葉が、何度も出てきました。

「東京ピクニッククラブ」を主宰し、趣味のピクニックを通じて各分野のクリエイターたちと各国の様々な都市でアート活動も行っている伊藤先生。

「好き」をカタチにした伊藤先生のお話を、もっと聞いてみませんか。

伊藤香織さん講座のお知らせ

東京理科大学連携講座

『「好き」をカタチにする進路選択のススメ』

日時：平成24年１月14日(土) 午前10時～正午

場所：男女平等推進センター

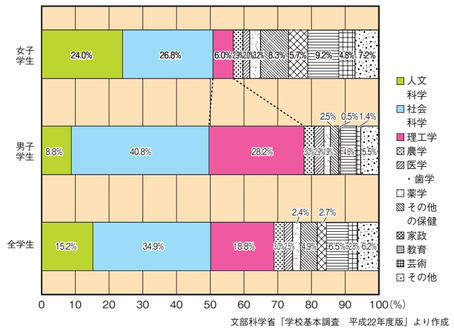
定員：先着30名（保育有10名・事前申込要）

申込：12月13日(火)午前９時より、電子申請か電話にて受付開始

問合：男女平等推進センター（TEL5698－2211）まで

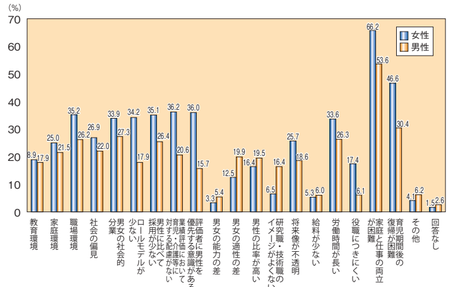
©YOSUKE SUZUKI

図１　学部学生の専攻分野別割合



文部科学省「学校基本調査　平成22年度版」より作成

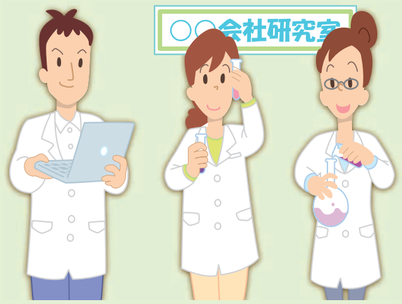
図２　女性研究者が少ない理由



（備考）男女共同参画学協会連絡会「科学技術専門職における男女共同参画実態の大規模調査」（平成20年）より作成。

女子が「文系」って誰が決めたの？

好きをカタチにする進路選択のススメ



今年は国連が定める世界化学年。女性科学者として有名なマリー・キュリー博士のノーベル化学賞受賞から100年目にあたります。

近年、さまざまな分野で活躍する女性が増えていますが、いまだに女性の進出が少ない分野があり、理工系分野もそのひとつです。

ところが、最近この理工系分野を選択し、研究者・技術者を目指す「理系女子」が増えており、行政や大学・企業も積極的に支援する動きがあります。

「理系女子」を取り巻く現状について調べてみました。

「理系女子」は希少価値？

女性の大学進学率が伸びている一方で、選択した学部専攻分野を見てみると、男子に比べ理工系分野に進学する女子の割合は少なく、約５分の１になっています。（図１「学部学生の専攻分野別割合」参照）また、わが国の研究職に占める女性の割合は13％と年々増加しているものの、諸外国に比べるといまだに低い状況です。

この性別による進路選択のかたよりの原因としては、参考にする女性の研究者・技術者の事例（ロールモデル）が少なく、女子が進路選択するにあたって、理系進路と職業の関わりや働く自分の将来像がイメージしづらいことが影響していると考えられます。

また、働く女性を取り巻く環境の変化が親の世代に浸透しておらず、進路選択の際の助言などに「男子は理系、女子は文系」といった、男性向け・女性向けの学部・職種にとらわれている面があることも無視できません。

悩める働く「理系女子」

女性研究者の少ない原因としては、そもそも理系分野を選択する女子学生の少なさもさることながら、子育て・介護等の負担により研究の継続が難しく、またそれを支援する環境が十分に整っていないことが挙げられます。（図２「女性研究者が少ない理由」参照）

内閣府の「少子化白書」によると、出産１年前には仕事を持っていた女性のうちの約７割が出産半年後には無職となっています。一方、育児休暇を利用して就業を継続している割合は、過去20年間、ほとんど変化がみられません。

理系分野をはじめ、さまざまな分野で活躍する女性が増えているものの、企業等が従業員に求める働き方を見ると、依然として男性中心のスタイルです。女性研究者にとっても、長時間拘束される働き方や「男性は仕事、女性は家庭」の意識が、「家庭と仕事の両立」や「育児期間後の復帰」を困難と感じさせる大きな原因になっています。また、産前産後の数ヶ月とはいえ研究の最前線から離れることや、業績評価へ悪い影響がでるのではないか等、研究者ならではの不安もあるようです。

「理系女子を増やせ！」行政・大学等による理系進路選択支援

行政や大学、企業において、女性研究者の活躍を促進したり、女子高生・学生の理系進路選択を支援する動きが活発になっています。

内閣府では、「女性が様々な分野にチャレンジしていくことにより、男性も家族と過ごす時間が増えるなどゆとりある生き方ができるようになる」として、女子高生・学生が「学ぶ」「働く」将来の自分を明確にイメージして、進学や就職等の選択（チャレンジ）ができるように応援する「チャレンジ・キャンペーン」というサイトをつくり、理系進路選択に役立つ情報を発信しています。

文部科学省では、「科学技術基本計画」において、各研究機関に対し女性研究者が仕事と子育て等をバランスよく両立できる環境を整えることや、子育て等のためにいったん女性が家庭に入っても、希望すれば再チャレンジできる環境の整備を求めています。

また、大学や各機関と連携し女子中高生の科学技術分野に対する興味・関心を喚起し、理系への進路選択を支援する事業も実施しています。

女子は理系が苦手？「好き」をカタチにする進路選択のススメ

よく聞かれる「男子は理系、女子は文系」という言葉ですが、本当なのでしょうか？

ＯＥＣＤの国際的な学習到達度調査によると、日本の男女別得点は数学的リテラシーでは男子５３４点、女子５２４点、科学的リテラシーでは男子５３４点、女子５４５点で、ほとんど差はありません。

理数系の成績に男女差は認められていないにも関わらず、女子だけが特に理数系科目への苦手意識を持っていたり、「女子は理系には向かない」として女子が理系科目で良い成績を取ることや理系進路に進むことを親や教師等の周囲の大人たちが期待してこなかったのは、無意識のうちの決めつけではないでしょうか。

私たちの社会には「女性はこうあるべき」「男性はこうあるべき」と、性別で期待する役割が違ったり、区別をしてしまうことがあります。

これからは、男性向け・女性向けとされる職種にとらわれることなく、幅広い進路選択を念頭に、自分の「好き」や個性、能力を活かす進路や職業を、一人ひとりが主体的かつ自由に選択できるような環境づくりが大切です。

こんなことも「暴力」です デートＤＶって何？

ＤＶとは、配偶者やパートナーなど、親密な関係の相手からふるわれる暴力のことです。平成20年の内閣府の調査によると、女性のおよそ10人に１人（10・８％）が「何らかの被害を受けたことが何度もある」と答えています。

また、近年、恋人間の暴力も「デートＤＶ」として問題になっており、10代～20代のときに恋人から被害を受けたことがあると回答した女性は、実に７人に１人（13・６％）にも上っています。

ＤＶもデートＤＶも大切な人を傷つける行為です。

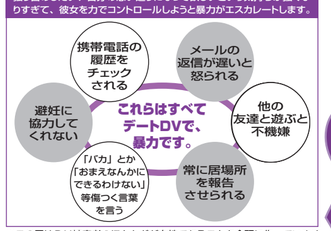
「大切な人」だからこそ、お互いの心とからだを大事にできる、違う考え方や価値観を認め合える対等な関係でありたいですね。

どこに相談したらいいのかわからないときは、

葛飾区男女平等推進センター（☎５６９８・２２１１）までご連絡ください。

デートＤＶとは？

結婚していない恋人間で起こるＤＶ（暴力や支配関係）のこと。彼女を独り占めしたい、自分の思い通りになって欲しいという気持ちが強くなりすぎて、彼女を力でコントロールしようと暴力がエスカレートします。



※この図はＤＶ被害者のほとんどが女性であることを念頭に作っています

男女平等推進センターをご利用ください。

男女平等推進センターは、
男女平等についての学びの場として
ご利用いただくことができます。

講座・講演会

年間をとおして、女性の再就職やキャリアアップ、男性の家事・育児参画や働き方の見直しなど、男女平等に関するさまざまな講座・講演会を開催しています。詳細は「広報かつしか」、区ホームページなどでお知らせします。

女性のための相談（要予約・無料）

女性のための各種相談を行っています。

一人で悩まず、専門カウンセラーや弁護士にご相談ください。

女性に対する暴力（DV）相談	月	午前10時～午後５時
法律相談	火	午後１時30分～午後４時30分
悩みごと相談	月・火・木・金	午前10時～午後５時
	水	午後１時～午後４時
		午後５時～午後８時（電話のみ・男性も可）

※年末年始・祝日は除く

図書資料室

男女平等や女性・人権に関わる内容について豊富な蔵書があります。葛飾区の図書館利用カードで借りることができ、インターネットからの検索や予約もできます。区立図書館にある本を予約し、男女平等推進センターで受け取ることもできます。

■開室時間　月～金　午前９時～午後５時

■休 室 日　土・日・祝、年末年始、特別整理期間等（年間５日間程度）

〒124－0012
葛飾区立石５－27－１
ウィメンズパル内
TEL：5698－2211
ファクス：5698－2315

■開館時間　月～土　午前９時～午後９時30分
　　日・祝　午前９時～午後５時

■休 館 日　年末年始、館内点検日・清掃日

男女平等推進センターでは「かつしかイクメン・ガジダンの星☆」を募集しています。詳しくは区ホームページをご覧ください。

男女平等推進センター　What's New　http：//www.city.katsushika.lg.jp/53/201/002779.html